

## 2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年1月14日

上場会社名 株式会社DDグループ 上場取引所 東  
コード番号 3073 URL <https://www.dd-grp.com/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松村 厚久  
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役グループ経営管理本部長 (氏名) 斉藤 征晃 (TEL) 03-6858-6080  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年2月期第3四半期の連結業績(2024年3月1日~2024年11月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	28,519	4.1	2,562	11.0	2,565	17.0	1,705	△6.9
2024年2月期第3四半期	27,393	18.4	2,308	—	2,192	1,832.7	1,831	317.9

(注) 包括利益 2025年2月期第3四半期 1,771百万円(△13.9%) 2024年2月期第3四半期 2,057百万円(236.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	85.88	—
2024年2月期第3四半期	92.87	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第3四半期	34,435	11,325	31.0
2024年2月期	34,292	9,738	26.5

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 10,663百万円 2024年2月期 9,079百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年2月期	—	0.00	—	—	—
2025年2月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2025年2月期の配当予想につきましては未定としております。

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

## 3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日~2025年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	38,780	4.6	3,760	15.9	3,690	17.9	2,640	△22.7	134.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年2月期3Q	18,455,019株	2024年2月期	18,442,720株
2025年2月期3Q	338,833株	2024年2月期	338,784株
2025年2月期3Q	18,110,084株	2024年2月期3Q	18,103,953株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来見通しに関する記述は、当社が本資料発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後の様々な要因により本資料記載の予想と異なる可能性がございます。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりであります。

	年間配当額				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年2月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 4,000.00	円 銭 4,000.00
2025年2月期	—	—	—		
2025年2月期 (予想)				4,000.00	4,000.00

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

第3四半期連結累計期間の全社業績

(単位：百万円、%)

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
売上高	27,393	28,519	1,126	4.1
営業利益	2,308	2,562	254	11.0
経常利益	2,192	2,565	372	17.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,831	1,705	△125	△6.9
営業利益率	8.4	9.0		0.6

当第3四半期連結累計期間(2024年3月1日～2024年11月30日)におけるわが国経済は、社会・経済活動の正常化が進み、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続きました。一方、台風や酷暑等の天候不順、ウクライナ危機による世界的な資源価格の高騰や日米金利差拡大を背景とした歴史的な円安の進行やアメリカの今後の政策動向、これに伴う原材料やエネルギー価格の値上げ圧力にさらされるなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループにおきましては、外食・娯楽及び宿泊需要の回復等やコロナ禍で取組んできた経営合理化策等の効果もあり、各事業セグメントで業績は回復に向かっているものの、原材料費や光熱費、物流費、資材コストの上昇要因や需要回復に応じた人材の確保など、経営課題への迅速な対応が求められる状況となっております。

このような状況のもと、当社グループは、前期業績を踏まえ2026年2月期を最終年度として2023年4月に公表しておりました「新連結中期経営計画(2024年2月期～2026年2月期)」(以下、新連結中期経営計画という。)の計数目標を、「連結売上高400億円」「連結営業利益40億円」「ROE20%以上」と2024年4月に補正いたしました。

激動する経営環境の中、当社グループは経営理念である「お客様歓喜」のもと、新たな成長ステージへと挑戦してまいります。新連結中期経営計画の目標達成に向け、DX推進を加速し、お客様に「熱狂的な歓喜」を提供する事業ポートフォリオを構築します。グーグル・クラウド・ジャパン合同会社との連携により、デジタル変革を加速させ、お客様の期待を超える価値を提供することで、持続的な成長と企業価値向上を実現します。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高28,519百万円(前年同期比4.1%増)、営業利益2,562百万円(前年同期比11.0%増)、経常利益2,565百万円(前年同期比17.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,705百万円(前年同期比6.9%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

## ①『飲食・アミューズメント事業』

(単位：百万円、%)

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
売上高	25,458	26,888	1,430	5.6
セグメント利益	2,864	3,502	637	22.3
セグメント利益率	11.3	13.0		1.7

当第3四半期連結累計期間における飲食・アミューズメント事業は、社会経済活動の正常化により都心部を中心に急激に人流が回復し、需要が堅調に続いております。しかしながら、台風や酷暑等の天候不順に加えて、資源価格の高騰と円安による食材価格やエネルギー価格の上昇といった外部環境の悪化の影響を受け、依然として予断を許さない状況が続いております。

このような状況下において、飲食・アミューズメント事業は、原価高騰対策や継続的なコスト削減等の各種施策による収益の確保、さらには不採算店舗の整理を進めることで、収益の改善に努めてまいりました。

また、IPコンテンツを活用した新たな取組みとして、株式会社ダイヤモンドダイニングは、株式会社パルコが運営する名古屋PARCO、渋谷PARCO及び心斎橋PARCO内に期間限定でオープンする「ちいかわラーメン 豚」の運営を受託いたしました。さらに、好調ブランドである「かに地獄」への業態変更を行いました。また、株式会社エスエル

ディーでは、なんばパークスミュージアムと連動した新しいミュージアムカフェスペースを「#702 cafe&dinerなんばパークス店」の一部スペースにおいて開設いたしました。

ビリヤード・ダーツ・カラオケ業態の各店舗においては、企業対抗戦や子供向けレッスンを開催するなど、顧客満足度の向上に努めました。インターネットカフェ業態においては、ビリヤードやダーツ、カラオケ個室を新設・増設し、サービスの拡充に努めました。

主な出店状況については、「水色」を東京都港区東新橋のカレッタ汐留に、「BAGUS 梅田店」を大阪府大阪市北区に、「酒膳 穂のほまれ 西新宿店」を東京都新宿区西新宿に、「chano-ma 天王寺」を大阪府大阪市天王寺区に新規出店し、カプセルホテル「GLANSIT」ブランド（2施設）を2024年2月22日より再稼働いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は26,888百万円（前年同期比5.6%増）、セグメント利益は3,502百万円（前年同期比22.3%増）となりました。

また、当第3四半期連結累計期間の店舗展開状況につきましては以下のとおりであります。

『飲食・アミューズメント事業の直営店舗出退店等の状況（2024年11月30日現在）』

	既存店	新店	退店	合計	業態変更
飲食事業	271	3	10	264	1
アミューズメント事業	52	1	2	51	-
合計	323	4	12	315	1

②『ホテル・不動産事業』

（単位：百万円、%）

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
売上高	1,934	1,630	△303	△15.7
セグメント利益	406	148	△258	△63.5
セグメント利益率	21.0	9.1		△11.9

当第3四半期連結累計期間におけるホテル・不動産事業は、地震及び台風・酷暑等の天候不順の影響があったものの、国内旅行の需要の回復に伴い、堅調に推移しております。しかしながら、地政学リスクなどの外部環境の悪化により、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況を踏まえ、国内旅行需要の回復に対応するため、ホテル運営では、サウナの日や紅茶の日に合わせた特別プランや非日常のホカンス体験ができるBBQ付のディユースプラン、「3S HOTEL HIRATSUKA」のリブランドオープン3周年記念のスペシャルプラン等の新たな取組みを実施することで認知度や顧客満足度の向上に努めてまいりました。

さらに、2023年5月末まで神奈川県からの要請を受け、新型コロナウイルス感染症の軽症者の受け入れ施設として提供（一棟有償借上げ）しておりました「PARK IN HOTEL ATSUGI」及び隣接する「TRAVEL INN」を改装し、「3S HOTEL ATSUGI」として2024年3月15日にリブランドオープンいたしました。全263室と神奈川県県央エリアでは最大級となり、日帰り利用も可能な男女別本格フィンランド式サウナ&大浴場を新しく設置したホテルです。

コンテナ運営では、各種施策を継続的に実施したことに加え、需要が増加しているバイクコンテナ等が高い稼働率を保っていることから順調に推移しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,630百万円（前年同期比15.7%減）、セグメント利益は148百万円（前年同期比63.5%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

連結貸借対照表 要約

(単位：百万円、%)

	前連結会計年度	当第3四半期	増減額	増減率
総資産	34,292	34,435	142	0.4
純資産	9,738	11,325	1,586	16.3
自己資本比率	26.5	31.0		4.5

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べ142百万円増加し、34,435百万円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金が843百万円減少したものの、売掛金、販売用不動産、未収入金、有形固定資産がそれぞれ257百万円、259百万円、210百万円、209百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,444百万円減少し、23,109百万円となりました。主な要因といたしましては、短期借入金と長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）がそれぞれ1,407百万円、861百万円減少したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,586百万円増加し、11,325百万円となりました。主な要因といたしましては、利益剰余金が1,505百万円増加したこと等によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年10月15日付「2025年2月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました2025年2月期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,301	9,457
信託預金	99	131
売掛金	1,065	1,322
預け金	284	352
販売用不動産	490	750
商品	33	41
原材料及び貯蔵品	216	239
前払費用	560	581
短期貸付金	33	—
未収入金	384	595
その他	63	93
貸倒引当金	△33	—
流動資産合計	13,499	13,564
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,030	14,386
減価償却累計額	△8,279	△8,356
減損損失累計額	△2,765	△2,409
建物(純額)	2,985	3,620
車両運搬具	26	19
減価償却累計額	△21	△17
車両運搬具(純額)	4	1
工具、器具及び備品	3,922	4,090
減価償却累計額	△3,272	△3,319
減損損失累計額	△391	△364
工具、器具及び備品(純額)	258	407
土地	521	521
信託建物	3,667	3,667
減価償却累計額	△466	△553
信託建物(純額)	3,201	3,113
信託土地	1,948	1,948
リース資産	239	240
減価償却累計額	△101	△117
減損損失累計額	△61	△60
リース資産(純額)	75	62
建設仮勘定	480	10
有形固定資産合計	9,475	9,685

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
無形固定資産		
のれん	2,581	2,446
商標権	0	0
ソフトウェア	43	33
その他	6	6
無形固定資産合計	2,632	2,486
投資その他の資産		
投資有価証券	1,542	1,639
長期前払費用	108	113
差入保証金	4,289	4,215
繰延税金資産	2,646	2,626
その他	98	102
投資その他の資産合計	8,685	8,697
固定資産合計	20,793	20,870
資産合計	34,292	34,435

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	716	838
短期借入金	3,227	1,819
1年内返済予定の長期借入金	10,851	11,136
未払金	579	735
未払費用	1,102	1,273
未払法人税等	31	887
株主優待引当金	96	73
資産除去債務	231	71
その他	850	551
流動負債合計	17,687	17,387
固定負債		
社債	100	100
長期借入金	4,674	3,528
リース債務	67	52
資産除去債務	1,202	1,202
長期前受収益	0	23
株式報酬引当金	—	6
繰延税金負債	784	771
その他	37	37
固定負債合計	6,866	5,722
負債合計	24,554	23,109
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	107
資本剰余金	7,733	7,741
利益剰余金	1,083	2,589
自己株式	△72	△72
株主資本合計	8,845	10,366
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	234	297
その他の包括利益累計額合計	234	297
新株予約権	1	1
非支配株主持分	658	660
純資産合計	9,738	11,325
負債純資産合計	34,292	34,435

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年3月1日 至2024年11月30日)
売上高	27,393	28,519
売上原価	5,851	6,012
売上総利益	21,541	22,507
販売費及び一般管理費	19,232	19,944
営業利益	2,308	2,562
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	0	11
受取協賛金	27	43
受取地代家賃	54	54
支援金	—	60
その他	43	53
営業外収益合計	127	224
営業外費用		
支払利息	107	114
賃貸費用	48	48
支払手数料	12	14
持分法による投資損失	46	37
為替差損	14	—
その他	13	5
営業外費用合計	243	221
経常利益	2,192	2,565
特別利益		
固定資産売却益	—	0
貸倒引当金戻入益	—	33
特別利益合計	—	33
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	1	0
減損損失	206	10
解約違約金	—	7
貸倒引当金繰入額	56	—
特別損失合計	264	18
税金等調整前四半期純利益	1,928	2,580
法人税等	73	872
四半期純利益	1,854	1,708
非支配株主に帰属する四半期純利益	23	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,831	1,705

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
四半期純利益	1,854	1,708
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	182	63
為替換算調整勘定	19	—
その他の包括利益合計	202	63
四半期包括利益	2,057	1,771
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,027	1,769
非支配株主に係る四半期包括利益	29	2

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当社及び連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(会計方針の変更)

従来、税金費用については、連結子会社である株式会社エスエルディーにおいて、原則的な方法により計算しておりましたが、決算業務の一層の効率化を図るため、当第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、この変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	飲食・ アミューズメント事業	ホテル・不動産 事業	合計		
売上高					
飲食・アミューズメン ト売上	24,649	—	24,649	—	24,649
コンテンツ売上	809	—	809	—	809
ホテル・不動産売上	—	1,714	1,714	—	1,714
顧客との契約から生じ る収益	25,458	1,714	27,173	—	27,173
その他の収益	—	219	219	—	219
外部顧客への売上高	25,458	1,934	27,393	—	27,393
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	25,458	1,934	27,393	—	27,393
セグメント利益	2,864	406	3,270	△962	2,308

(注) 1. セグメント利益の調整額△962百万円は、主に各報告セグメントに配分していない間接部門費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食・アミューズメント事業」において、営業活動から生ずる収益が著しく低下した等の15店舗について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては206百万円であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	飲食・ アミューズメント事業	ホテル・不動産 事業	合計		
売上高					
飲食・アミューズメン ト売上	26,098	—	26,098	—	26,098
コンテンツ売上	789	—	789	—	789
ホテル・不動産売上	—	1,401	1,401	—	1,401
顧客との契約から生じ る収益	26,888	1,401	28,290	—	28,290
その他の収益	—	229	229	—	229
外部顧客への売上高	26,888	1,630	28,519	—	28,519
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	26,888	1,630	28,519	—	28,519
セグメント利益	3,502	148	3,650	△1,087	2,562

(注) 1. セグメント利益の調整△1,087百万円は、主に各報告セグメントに配分していない間接部門費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食・アミューズメント事業」において、閉店決議を行った1店舗について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては10百万円であります。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	455百万円	509百万円
のれんの償却額	135	135

(重要な後発事象)

該当事項はありません。